

令和4年度第2回 久留米市認知症ネットワーク会議 会議要旨

日時	令和5年 1月27日(金) 18:00~19:00
場所	久留米シティプラザ 小会議室1・2
出席者	小路委員長、堀江副委員長、古賀委員、古川委員、北原委員、吉永委員 関委員、天本委員、大内田委員、阿部委員、中村委員、藤井委員、角委員
欠席者	山崎委員、稲田委員、綾部委員
傍聴者	なし
議事次第	1 報告事項 久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画における認知症施策の進捗状況について 2 協議事項 久留米認知症支援ガイドブックの見直しについて 3 その他
議 事	
1 報告事項 <事務局> <阿部委員>	<p>久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画における認知症施策の進捗状況について(事務局より資料1を基に説明)</p> <p>認知症地域支援推進員の課題について、認知症カフェに入ることも認知症地域支援推進員の仕事と思うし、認知症の人と家族の一体的支援の役割もある。その中で何をやる人なのかを明確にし、認知症地域支援推進員自身も理解する必要があると思う。</p> <p>県の事業で若年性認知症サポートセンターとの連携で、毎年4カ所若年性認知症本人交流会を行っている。それを次年度久留米市の方で開催すると当事者の方が出てきやすい環境を作れるのではないかなと思うので、検討して欲しい。</p> <p>認知症カフェの支援についてだが、3月3日に全国で認知症の実態調査を行っている方を呼び認知症カフェセミナーを県で行う。今後案内を送付するため、ぜひ参加いただければと思う。そこで他市でカフェをしている方と繋がっていただければと思う。</p> <p>認知症介護電話相談についてだが、件数が少ないので周知と書いてある。周知も必要だが、相談件数が少ないことは悪いことではないと思う。繋げる先があるという解釈もできるのではないかな。包括やケアマネなど様々な相談できる窓口があるという見方もできると思った。</p> <p>行方不明高齢者位置情報サービス利用者補助事業についてだが、沖縄で流行しているのが自動販売機に機械をつけることで、その方々が早く発見されるという仕組みで企業と組んで行っているのを取り入れてみてはどうか。</p> <p>備えの部分で言うと、スマートフォンを活用しているものが始まっている。スマホのアプリ教室だが、企業だと教えてくれないので、大学生が教える取り組みもある。LINEのテレビ電話の使い方を教えておくと本人が自身の場所が分からなくてもテレビ電話を見た人が分かるようになり、本人から発信できるという考え方が主流になりつつある。ぜひ参考にされてはどうか。</p>
<事務局>	<p>若年性認知症交流会は、頂いたご意見を基に検討したいと思う。3月3日のカフェセミナーは、案内が届き次第、関係者や各カフェに周知をしたい。</p> <p>認知症介護電話相談については、様々な相談窓口が出てきて件数が少ないという意見だが、その通りであると思う。ただ、出前講座等で市民に聞いた時に、認知症</p>

	<p>電話相談を知らない方もあり、周知も引き続き必要と考えている。</p> <p>一体的支援に関連して、今年度、久留米市と久留米大学病院と連携し認知症当事者ミーティングを初めて開催した。</p>
〈委員長〉	<p>認知症施策の大綱にも周知啓発、当事者発信は1番最初に来ている重要項目である。認知症地域支援推進員には、様々な研修の場は必要と思う。ただし、業務も多岐にわたり、また資金の面もあるため中長期的な組み立てで行うのが望ましいと考える。また、キャラバンメイトとチームオレンジの役割が重複している部分もあるので、いかに明確化するかが重要。それぞれが役割をきちんと認識するきっかけになればと思う。</p>
〈中村委員〉	<p>認知症地域支援推進員の質の向上に対して、何か具体的な方法を検討しているのか。あれば教えてほしい。</p>
〈事務局〉	<p>今年度は研修を行った。来年度以降も継続して実施することで質の向上を図りたいと考えている。</p>
〈委員長〉	<p>地域包括支援センターは非常に多忙と思っている。認知症地域支援推進員は認知症以外の業務も行っているだろうし、おそらくそのサポートも行っていると思う。その中で具体的に普及啓発するには業務全体の見直しが必要だと思う。そのため、この会議や市を挙げてサポートすることも重要と考える。また、スキルアップを図る意味では全てにおいて研修は必須と思う。</p>
〈古川委員〉	<p>認知症カフェの課題について、認知症カフェ一覧は市のホームページ上にあるためそれを認知症支援ガイドブックに載せたり、QRコードを貼るなどすればいいのではないかと思った。</p>
2協議事項	
〈事務局〉	<p>久留米市認知症支援ガイドブックの見直しについて (事務局より資料2を基に説明)</p>
〈委員長〉	<p>『認知症支援ガイドブックの見直しの方向性』について意見を頂きたい。</p>
〈阿部委員〉	<p>地域で暮らせる当事者が増えている中で生活する視点の情報がいいのではないかと。例えば、この店は親切に対応できるなど、具体的に掲載するといいいのではないかと。加えて、ガイドブックが病気メインになっている。認知症が怖い、なりたくないという内容よりも、認知症になっても暮らせることが分かるようなガイドブックにできればと考えている。一番最初に開くページが何なのかで次に進むきっかけになると思う。</p>
〈藤井委員〉	<p>医療機関一覧がボリュームがあり、中間付近にあるので、その前と後ろで途切れてしまう感じがする。巻末に持って行くと見やすくなると思う。</p>
〈委員長〉	<p>次に、『医療機関の調査』について意見を頂きたい。</p>
〈阿部委員〉	<p>質問に、ピアサポートを加えて欲しい。病気になったことを悔やむのではなく、お互いが出会える場ということになる。当事者が病気のことを話すことによって元気になるので、まずこの言葉だけでも知ってもらえればと思う。そのため、質問に『ピアサポートという言葉を知っていますか?』を入れてほしい。また、他都市では認知症の初期段階に渡すリーフレットの後ろに、地域包括支援センターのはんこが押されたもののかかりつけ医から本人に渡してもらい、認知症になれば閉じこも</p>

	<p>るのではなく様々な場所に繋がるということが、どれだけ本人に伝わるか実証実験を来年度行う。認知症を前向きに捉え、当事者同士が繋がる場所があることを医師から発信してもらいたい。皆さん医師からもらったものは大事にする傾向にある。</p>
〈委員長〉	<p>仰る通りと思います。ところで、『ピアサポート知っていますか?』の回答はどうすれば良いとお考えですか。</p>
〈阿部委員〉	<p>言葉を知っているか、知らないかだけで良いと考えている。ピアサポートとピアカウンセリングが入り混じっている。ピアカウンセリングはカウンセリングなので、専門的な知識がいる。ピアサポートは、当事者同士で出会うこと。そのため、二つの違いを記載していただき、知ってもらう機会になれば良いと考えている。</p>
〈委員長〉	<p>医療機関調査票は、ガイドブックには掲載されているが、医療機関の検査等に対応してもらえなかったような場合に、確認ができる根拠になるし、行政も把握しておくべきであると考え、詳細な調査票にしている。もし、自院での対応が難しくても専門医に紹介できるような体制づくりを最低ラインにしている。</p>
〈古賀委員〉	<p>委員長ご指摘のとおり、ガイドブックに記載があるが対応できない病院もあると思う。調査の回答と実態が異なることになる可能性がある。久留米市ではないが認知症の専門病院と言いながら周辺症状に対応していない所もあった。どのようにすればいいか。</p>
〈委員長〉	<p>非常に難しい。患者さんの対応したくても自信がない場合は後方支援ということも可能かと思う。ただし、記載したことに対してだめとはできない。どこまでガイドブックに載せるかも含め、他の委員の意見を聞きたい。</p>
〈吉永委員〉	<p>調査票は医師が記載するのか、コメディカルなのか。医師は知らない情報をコメディカルは知っていることもあると思うがいかがか。</p>
〈古川委員〉	<p>相談窓口という意味が大きいと思う。敷居を高くすると取りこぼしが発生する危惧がある。調査票の中に専門外来や画像診断等記載があるので、見てもらえなかったというケースはそう多くないと思う。相談にのる診療所に関しては一通り載せた方がいいと思う。相談できる医療機関も載っているので安心と思う。また、先程の質問に対してだが、私は医者が記入すべきと思う。自分の医療機関がどこまで治療できるかは医者が一番分かっているはずだ。</p>
〈古賀委員〉	<p>病院によると思う。医師が熱心に行っている所は自分で記載するだろうし、コメディカルが詳しいのであればコメディカルが記載すると思う。医師の意欲による。誰が書くと決めなくてもいいと思う。</p>
〈北原委員〉	<p>対応できる医師が記載すべきと思う。自分は記載することが多い。</p>
〈委員長〉	<p>可能な限り医師が記載するようにと記載するのが無難と思う。それが難しくても記載だけはお願いします。という記載をしたほうがいいと思う。それでよろしいか。(異議なし)ではそれをお願いします。</p>
〈委員長〉	<p>次に3. 概要版の作成について意見を頂きたい。無くていい方が多いので無しという方向でいいか。</p>
〈中村委員〉	<p>判断がつかないが、文字が多く感じると気軽に目を通せないのなら概要版のほう</p>

	<p>がいいのかと思う。</p>
〈堀江副委員長〉	<p>何年もこのガイドブックを使用して、地域で話をしている。このガイドブック知っていますか？と聞くと初めて見たという方がほとんどである。全戸配布した意味があまり感じないのを肌で感じた。確かにボリュームはあるが、すごくいいことが書いてあると紹介し説明すると読むきっかけになるのではないかと。配布も大事だが、説明・活用する場が必要と思う。予算が許すなら、ガイドブックをお知らせする機会を作った方がいいのではないかと。</p>
〈古川委員〉	<p>コストの面も気になる。概要版を作ったとしても場面によって、使用する内容が異なると思う。何を取捨選択するのか難しいと思う。言われた通り、説明する方がずっと合理的に感じる。</p>
〈阿部委員〉	<p>他市でも全戸配布されてもしまい込んでしまい、配布されたことを忘れてるのはよく聞く。様々な集まりがある中で、ガイドブックの内容を周知することを認知症地域支援推進員にしてもらえれば地域との顔繋ぎにもなると思う。若年性のガイドブックは本人版と家族版に分けようと思っている。本人が読みたいものと家族が読みたいものは違うと思う。久留米のすごい所はこれだけの医療機関について情報が載っていることと思う。概要版ではなくて、当事者が診断されたとき、これだけは知ってた方がいいと思う情報を渡せるようにして、ガイドブックに記載してある医療機関に参考資料的に渡してもらおう方がいい使い方ではないかと思う。</p>
〈吉永委員〉	<p>ガイドブックの説明会をする際に、チラシに何ページか入れて配布するのはどうか。例えば、不安を感じている方へ届くような、認知症って知っていますか？認知症かな？と思ったら等のページのみをチラシに付けて、気になる方は〇月にある日に来てくださいという使い方もありなのではないか。</p>
〈事務局〉	<p>貴重なご意見ありがとうございます。概要版の作成等については、今後、プロジェクトチームの方で検討できればと思います。</p>
〈委員長〉	<p>プロジェクトチーム委員の希望について、希望者はいますか。</p>
〈事務局〉	<p>本日欠席の稲田委員から、プロジェクトチームに参加したいという申し出がっている。</p>
〈委員長〉	<p>その他希望される方はいるか。 小路委員長、堀江副委員長、阿部委員、角委員、藤井委員が希望</p>
3その他 〈事務局〉	<p>事務局より、以下を案内 ①オレンジ健康フェスタ（2月26日）の案内 ②次回会議は、8月を予定。 ③プロジェクトチームは4月開始予定</p>